

《 考 察 》

*令和4年度から4択から5択に変更

◇児童の評価について

20項目中19項目が「そう思う」・「まあそう思う」を合わせて70%を超える高評価であった。

特に、①「学校は楽しい」(90%)、⑥「いじめや仲間外しをせず、誰とでも仲良くできている」(92%)、⑦「困ったときに相談できる先生や友達がいる」(90%)、⑯「チャイムや音楽の合図で時間を守って生活できている」(90%)、⑰「避難訓練や安全教室に真剣に取り組んでいる」(96%)、⑳「『阿南市』というまちが好き」(91%)の6項目が90%を超えており、いずれも昨年度よりポイントが上昇している。子どもたちが安心して学校生活を送り、周囲との関係も良好であることがうかがえる。

一方で、⑤「学校や家で読書をしている」という項目だけは肯定的回答が56%と、比較的低い結果となった。また、全体的に見ると70%は超えているものの、④「授業のルール(10のやくそく)を守っている」、⑧「家庭での勉強(宿題・自主学習)をがんばっている」、⑬「早寝・早起き・朝ご飯ができています」などの項目は、高学年になると、他の学年よりも肯定的回答が少なくなっている。

読書習慣や生活習慣、学習習慣に関する項目は、家庭生活とも密接に関係している。今後、学校と家庭が協力して取り組むことで改善していきたい。

◇保護者の評価について

学校生活に関する項目では、「楽しく学校生活を送っている」(82%)、「思いやりの心が育っている」(79%)、「安全教育にしっかり取り組んでいる」(72%)といった点について、7割以上の肯定的評価をいただいた。学校での生活が安定し、子どもたちが安心して過ごしていることを改めて確認できた。

一方で、家庭での生活習慣やICT(スマホ・ゲーム)利用に関する項目では、肯定的回答が低いものや、昨年度から大きく低下しているものが見られた。特に「家庭で学校の話をしている」(68%)、「インターネットやゲームのルールを決めて守らせている」(44%)、「早寝・早起き・朝ごはんの習慣づくり」(63%)といった項目で、10ポイント前後の大きな減少が見られる。これらの背景には、保護者の生活スタイルの変化や、子どもたちのスマートフォン利用の増加など、社会全体の状況が影響していると考えられる。学校としても、家庭だけに負担をかけるのではなく、どのように協力し合えるかを一緒に考えていきたいと考える。

また、読書習慣やPTA活動への参加についても、引き続き課題が見られた。これらは全国的にも共通する傾向であり、学校としても無理のない形で取り組みを進めていく必要があると感じている。

◇教職員の評価について

質問項目20に対して肯定的な評価が70%を超えていたのは17項目だった。

特に、次の項目について多くの教職員が肯定的に回答した。①「子どもたちは楽しい学校生活を送れている」(93%)、⑥「いじめや仲間外しを許さない学級・学校づくりに取り組んでいる」(93%)、⑨「特別支援教育への理解と適切な支援が行われている」(93%)、⑱「教職員としての自覚やコンプライアンス意識を持って行動している」(93%)。これらは、本校が大切にしている「安心・安全な学校づくり」が教職員の中でしっかり共有されていることを示すものである。

一方で、教職員が自ら課題として認識していたのは、「自主学習や読書活動のさらなる充実」、「授業でのタブレット活用の工夫」、「授業ルールの徹底」、「教職員の働き方の改善(勤務時間の適正化)」である。これらは、子どもたちの学びをよりよくするために重要なことである。

今後、業務の見直しを進め、子どもたちと向き合う時間や教職員自身の研鑽の時間をより確保できるようにするとともに、子どもたちの読書習慣や学習習慣の充実、ICT(タブレット)活用の質の向上にも努めたい。

アンケート結果全体を通して

児童・保護者・教職員のいずれのアンケートでも、「学校が楽しい」「いじめを許さない雰囲気がある」「安全で安心して過ごしている」といった項目が高い評価となった。これは、日頃から子どもたち一人一人を大切に、安心・安全な学校づくりに取り組んできた成果であり、本校の大きな強みであると言える。

一方で、読書習慣や生活リズム、家庭学習に関する項目は、児童・保護者・教職員のいずれも課題として挙げている。ICT機器の利用増加や生活スタイルの変化が影響していると考えられる。これらは、学校、家庭のどちらか一方だけでは解決が難しい課題である。今後も、学校と家庭が同じ方向を向き、子どもたちの健やかな成長を支えていけるよう、取り組みを進めていきたい。

アンケート結果を真摯に受け止め、子どもたちと向き合う時間や教職員の研鑽の時間を確保しながら、より質の高い教育活動をめざしていきたい。